

## 片瀬のぞみだより(1月号)

日本基督教団片瀬教会付属  
片瀬のぞみ幼稚園  
家庭通信2016. No.22

### 月主題聖句

『光の子として歩みなさい』

エフェソの信徒への手紙5章8節

片瀬教会牧師 柴 適

2017年、新年明けましておめでとうございます。

新しい年、お正月一家団欒の楽しい思い出の日を過ごされたことと思います。ご一家で故郷に帰省された方、外国への楽しい旅行をされた方、スキーなどでスポーツを楽しまれた方、お家でのんびりと過ごされた方などのお子様の思い出で作りやお土産話がとても楽しみです。

年が改まり三学期が始まりました。今年の年末年始は、寒さが穏やかな温かい日々が続きました。この学期もお子様の体力と成長が寒さを吹き飛ばすほどのエネルギーになりますよう、お子様、教師、保護者の皆様と心を通わせながら豊かな日々を大切に過ごして参りたいと思います。

さて、今月の主題は『協同』です。辞書によりますと『お互い共に力と心を合わせて助け合ってことに当たること』と記されています。去年の全園児によるクリスマスページェント(聖誕劇)が、まさにこの協同の心をしっかりと表わしていたように思いました。

ひよこ組さんは、緊張の中にもよく覚えていて与えられた役割を表現されていました。とても可愛らしく、観客に笑顔と喜びを与えてくれました。すずめ組さんは、大胆に勇気をもって主イエス・キリストの誕生の意味を表現しているのが、とても印象的で力強かったです。はと組さんは、さすが年長組さんの演技で、主イエス・キリストの馬小屋での誕生の流れを把握して与えられた自分の役をしっかりと演じていました。イエス様のお誕生を他のお友達の演技に気を懸けながら心から力を合わせて積極的に演じている姿に感動しました。お互いに力と心を合わせて助け合っことに当たるという『協同』の精神が表現されている様子がとても実感できたページェントでした。片瀬のぞみ幼稚園のモットーは、お友達の年齢に分け隔てなく共に仲良く助け合っいつも一緒に楽しく過ごすことです。

今月の聖書は、エフェソの信徒への手紙5章8節の『光の子として歩みなさい』です。このみ言葉は、使徒パウロが紀元60年～62年頃にローマの牢屋の中で書いたエフェソの教会の人々に宛てた『獄中書簡』と呼ばれた手紙の一節です。

『光』のことをギリシャ語では『フォース』と言います。映画スター・ウォーズに登場してくる架空のエネルギー源である『フォース』はキリスト教の『光』からとったものであるようです。このフォースを正しく用いることが出来る者は、どんな境遇でも逆境でも生き延びて行くことが出来ると表現されています。

『光の子として歩みなさい』の光は『イエス・キリスト』を指しています。私達はイエス・キリストと繋がっていることにより『光の子』として共に歩むことが出来るのです。

それは、どんな生活の中にいる時も、又どんなに苦しい状況の中にもイエス・キリストが共にいて下さることによって、その状況から必ず解放されるのです。

又養ってくださるのです。マタイによる福音書6章26節に『空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる』とあります。今、幼稚園の園庭には、カラス、キジバト、ヒヨドリ、すずめなどの野鳥が餌を食べにやって来ています。私達の目には園庭には何も見えないと思える時にも、鳥達には餌として食べる物があり見えるのです。何もしない鳥達を神様は餌を用意して養ってくださっているのです。のぞみ幼稚園で日々神様との拘りの中で生活されている大切な保護者の皆様のお子様が『光の子として歩むこと』も、私達が『光の子として歩む』ことも、年齢関係なく、気づかない所で神様は養ってくださるのです。ましてや、今日もお子様お一人、お一人を『光の中を歩む者』として養い育ててくださっているのです。

今学期も、お子様が身体の外は厳しい冬の寒さに負けない体力の向上と身体の内なる心は、神様に愛されて、その愛をお友達と共に分かち合う『協同』の精神で過ごして欲しいものです。保護者の皆様と教師が共に手を携えてお子様の成長の手助けを楽しみながら行っていくことが出来ますようお祈りしています。